

講義名	オ)スポーツビジネス論			
担当教員	山口 泰雄			
開講期・曜日・時限	前期 水曜日 2時限	授業形態	講義	
履修開始年次	2年生	単位数	2	備考

主題と概要

現代社会は、高度情報化、グローバル化、少子高齢化を特徴にして、急速な変化を遂げている。半面、わが国では医療費の高騰や人口減少、都市と地方の格差の拡大など、さまざまな社会課題が浮上している。このような社会情勢の中、スポーツの社会効果、経済効果など、スポーツの持つ力が評価されている。

本講では、スポーツビジネスに関する基礎知識を習得し、スポーツビジネス領域の概要と現状に関する理解を深める。また、スポーツビジネス領域に求められる人材の資質とは何かを議論し、自ら積極的に企画・立案力を高め、社会貢献できる人材としての基礎を学ぶ。

到達目標

この科目は、「オンデマンド型」で実施する。新型コロナウイルス感染症等の学校感染症への感染者または濃厚接触者に指定され、一時的に通学が禁止となった場合は、解除後に補講等にて個別対応する。

本講の到達目標は、以下のとおりである。

- 1) スポーツビジネスに関する基礎知識を身に付けるようになる。
- 2) スポーツビジネスに関する諸産業（用品産業、施設・空間産業、サービス・メディア産業）の理解できるようになる。
- 3) スポーツビジネスの対象に、マーケティング戦略の企画・立案を習得できるようになる。

提出課題

授業の終わりにその日の内容に関する振り返りを行い、レスポンスにより課題を提出する。第8回目には、中間テスト、第15回目は期末テストをレスポンスにより実施する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

授業のはじめに、前回授業の振り返りを行い、レスポンスの内容に関する講評を行う。

評価の基準

中間テスト（30%）、期末テスト（30%）、出席・レスポンス回答・受講態度（40%）

履修にあたっての注意・助言他

オンデマンド型であることから、レスポンスの提出と提出期限の厳守が重要である。

教科書				
.使用しない.				

プリント資料及び参考文献

講義資料は、PDFで次週に講義連絡に添付する。参考文献は、「スポーツ産業論第6版」（原田宗彦、杏林出版）。

- 授業計画**
1. スポーツビジネスとは？
 2. スポーツビジネスの歴史と構造
 3. スポーツ用品産業
 4. スポーツ施設・空間産業
 5. スポーツサービス産業
 6. スポーツ情報産業
 7. スポーツマーケティング
 8. スポーツイベント産業・中間テスト
 9. プロスポーツ産業
 10. プロスポーツ産業
 11. 民間フィットネスクラブ
 12. スポーツツーリズム
 13. 大学スポーツ
 14. オリンピックレガシー
 15. 東京オリパラ・期末テスト

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習：2時間
次週シラバスを確認し、参考文献、ネット等でその内容を事前に把握する。

復習：2時間
授業における配布資料に再度、目を通し、重要なポイントを確認する。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本授業を通して、子どもから高齢者までの広範囲にわたる健康分野に関する基礎知識を身につけ、健康・スポーツ関連産業の理解を深めることができることから、本学科のディプロマポリシーの達成に大きく貢献できる科目である。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

市民マラソンの運営、社会調査の実施と分析、ジュニアスポーツリーダー講習会および高齢者スポーツイベントの運営等。

備考